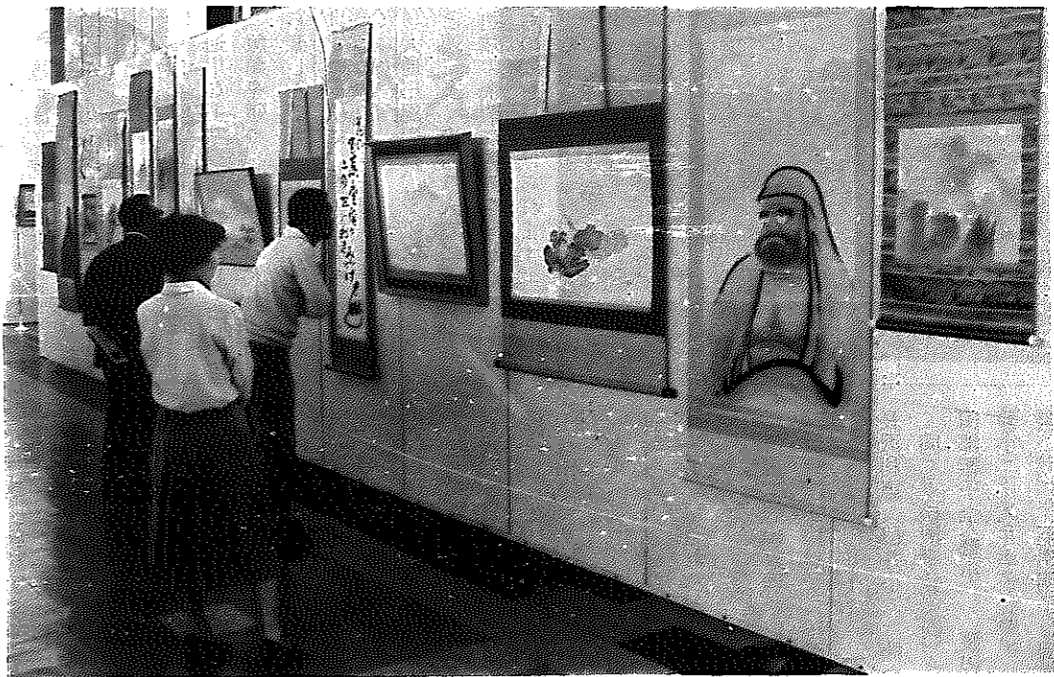


投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがだん思っていること、お書きになって気軽に寄せてください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇〇一 白根市大字白根一三三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。



5月に開かれた吉原芳仙画伯の遺作展

芸術の秋(思)

いろいろな作品を心静かに鑑賞したい

庭山 弘さん (五六ノ町五・無職・63歳)

芸術の秋、各地で文化祭の催しが盛んに開かれています。心静かに絵画、書などを鑑賞するひとときが過ごせれば幸せと思います。そして厚生会館、図書館などの文化施設を、いっそう充実してもらいたいと思います。厚生会館で吉原芳仙画伯の遺作展が開催され、展示されている多数の作品を、身近に、ゆっくり鑑賞することができ、そして、

偉大なる母

千八百人の子供たちの「ママちやま」

野内アイさん (砂押二・無職・59歳)

この「エリザベスサングラスホーム」は、河原崎国太郎さんの解説と、演劇の入ったスライド映写会で、去る十月八日、新潟市公会堂で開かれたものです。昭和二十二年二月、京都

分かりました。

この出来事から、沢田美喜さんは混血の子供たちを育て、母親になることを決心しました。彼女は、自分の土地や建物を利用したりして、子供たちを育てる施設を造り、「エリザベスサングラスホーム」と名付けました。このときから彼女は子供たちの「ママちやま」になったのです。

街角やトンネルの中に捨てられた子供たちが、ホームに連れられてきます。ミルクは底を尽くけれど赤ん坊は増えてゆくばかり、しかし、「ママちやま」は困難にもめげずに子供たちを育てていきます。子供たちが中学校に入学する

青少年健全育成

自分の子供と違って育成運動を

上杉正則さん (下茨・自営・50歳)

ときに、教育委員会やPTAの役員に混血児だからと入学を断られました。そこで今度は、自分の土地に中学校を造り、義務教育課程を修了させたのです。「ママちやま」は「この子供たちは肌の色が違っていても日本人よ、私が育てた私の子供よ」と呼び続けてきました。

世間のさまざまな中傷に耐え抜いて、千六百人の子供たちを育てた「ママちやま」こと沢田美喜さんは、昭和五十五年、七十八歳でこの世を去りました。

「戦争の犠牲者」という言葉が私の心に焼き付き、戦争が二度と起こることなく、平和でありますようにと私は願います。

により友人関係に幅がで、行動範囲が広くなり、親の目が届かない時間が長くなりました。特に中学生、高校生が友達の家泊まるということが、頻繁に行われているようですが、そういうことはお互いにさせないようにはしたいものです。

そして悪いことをしたら、他人の子供でも人ごとと思わず、自分の子供と同じようにしかるなり、注意するなりし、協力して補ない合ってゆければと思っています。

今年八月に白根市へ来た、フイリピン農村青年を我が家で受け入れることになったので、青年スクールの英会話コースに入りました。

同じ年代の人たちと勉強したり、話し合ったりしていくうちに、ほんとうの親友の出来たことが、いりピン農村青年を我が家で受け入れることになったので、青年スクールの英会話コースに入りました。



小林 明さん (新飯田館・24歳・農業)

「この家の物なら」と言われるおいしい果物を作ることが、僕の目標です。嫁さんをもらったら、その目標に向かって、いっしょに進んでゆきたいと思っています。

俳句

紅葉狩り友と語りし山の宿 大旗 豊治  
紅葉と江崎の事件人目引く 玉木 長吉  
雁渡る河口しずかに舫い舟 小林キミイ

川柳

白をきる女の口が逞しい 竹石 甚五  
家計簿をごまかす妻の貯金熱 織田 セツ  
恋捨てて女心を打つ水雨 佐藤トミノ  
白髪を染めて夫に謎をかけ 野内熊太郎  
任された家計に主婦も腕まくり 渡辺 ミヨ  
家計簿に証拠を記す物価高 田中 成子  
値引きして家計簿に書く女物 今井 タエ

古机亡父の遺徳を偲ばせる

後藤マサノ  
大言を吐く嘴がまだ黄色 今井 七郎  
さよならと綺麗に言える秋の風 吉川 彰  
秋風が吹くたび薄れてゆく日焼け 高橋祐四雄  
冷蔵庫超満腹で年を越す 中村 尚治  
百たたく百のかたちの愛なれば 長井 徳市  
子育てを孫の喧嘩で思い出す 田村 恒夫  
友の事だから苦言を聞いてやる 山岡 フミ  
孝行を三日ですますり帰る 岡村 清  
たしながみが判る湯呑みのお茶の量 佐藤 ヨキ  
新札が手に馴染まない冬の風 米野 光雄  
気分屋の椅子くるくると語りかけ 西条 ムラ

短歌

枯葉敷く庭に木漏るる陽に映えて 中村 京  
ドウダンつつじの紅は華やか 大野タケノ  
生きるとは苦楽もあれば人生の味をかみしめ秋を惜しみて



ほんとうの親友に巡り合えました